



自然と友だち なぎさっ子

登校時の正門での出会いは、子どもたちと言葉や目と目で心をかよわす大切なひと時です。

ほんの一瞬ですが、目と目が合っただけで嬉しさとほほえみ返す子、なんだかうつむき加減で元気がない子、通学路で見つけたお土産の草花を恥ずかしそうに差し出す子、大急ぎで遊びに行こうと駆けていく子、十人十色です。

貴重な四つ葉のクローバーを見つけたのでしょうか、プレゼントしてくれる子もいます。

なぎさっ子は本当に植物や生き物に関心が高く、いつもびっくりさせられます。

先日も、ある子が、「もうすぐ雨になるよ。だって、ツバメが低く飛んでいたから。」と教えてくれました。何のことかわからなかったので、染井副校長先生に教えてもらいました。

湿度が高いと鳥たちの餌である虫が低いところを飛び、それを狙って鳥が低く飛ぶということのようです。湿度が高い、つまり、雨になる可能性があるとのことでした。^{かんてんぼうき} 観天望気。勉強になりました。

また、ある時は、大きな葉をくるりと巻いた中に黄緑色の芋虫のようなものを入れた葉を差し出し、「これ、あげます。」とニコニコしながらプレゼントしてくれた子がいます。ひょいを見ると虫がたくさんいるように見えて内心、「ひえ～～。」とびっくりして声を上げそうでした。よく見るとかわいい葉でなんと、姫小判草という植物だとか。

「ふしぎみどり」や「みちくさ」の学習の時学んだことが心と体に染み込んでいるんですね。

小さな学者たちにいつも脱帽させられます。

このように、朝のひと時の子どもたちを見ると、いつか、興味・関心から探求心に、探求心は、さらに進化発展して、大発見に至る、そんな予感がするのですが、楽しみでたまりません。

このような学びを心と体に仕舞い込んでおくのはもったいないことです。絵にしたり、文にしてまとめたり、友だちに話したりして表現することで確かな記憶や知識、次の課題にしていくことも、「なぎさStyle」の一つです。



▲もらった葉っぱは、押し花に

イロハモミジ

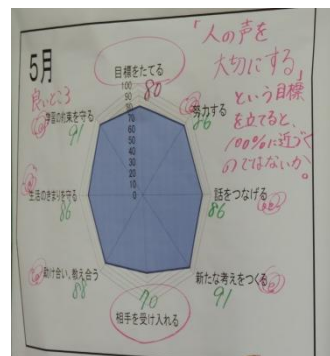
葉の裂片をいろはにほへとと数えたのが名前の由来。京都の紅葉の名所、高尾にちなんでタカオカエデが別名です。

今月の生活目標

- 廊下や階段、オープンスペースを静かに歩こう
- 名札をつけよう

つながる仲間

4月初めなぎさ会総会では、今年のキーワードは、「つながり」とお知らせしました。子どもたち同士のつながりを強く、深くするために、学級づくりを教師と子どもたちであるという取り組みを始めています。4年生では、学級の課題を整理分析するために、学級づくりの8つの項目で、児童の意識調査を行いました。自分たちの学級の良さや課題を話し合い、あるクラスでは、目標を「人の声を大切にすること」としました。レーダーチャートによる分析は一目瞭然。



つながりは、安心感に、安心感は、全員発言になって授業を活性化していきます。自分たちのことは自分たちで決めて実行するスタイルができてきます。

